



愛知 県
板金工業組合

名古屋市昭和区
北山町3-8-6
電話 732-1226
発行 広報委員会

新春の集い

平成四年 新年会開く

愛知県板金工業組合の新年懇親会が、西三板金連合会の準備で、三河湾が一望できる風光明媚な天然温泉・吉



良温泉の吉良親光ホテルで、去る1月19日県内より153名の多数の御出席をいただき、盛大に開催されました。

懇親会は岡崎の副支部長・高柳一男氏の歯切れの良い司会で、定刻より始められました。開会の辞は、西三板金連合会顧問の豊田・松井住氏より宣言。同じく西三板金連合会会長・西尾の杉浦武氏の歓迎の挨拶。

愛板平野理事長の挨拶は脂が乗りきった理事長の今年の抱負、流暢な話術に拍手・拍手来賓の方々の御挨拶は今期かぎり勇退される、参議院・三治重信先生、長い議員生活の話をしみじみ話され、これからは、自分の時間をもちたいとのこと。長い間組合と中央との御力添え有り難うございました。

尚、先生の後任の方は新聞しやうじ氏とのこと。つづいて、県商工部工業振興課長・奥山真弘氏より挨拶を頂きました。

西三の役員さんのアイデアによる鏡割りを、来賓・メーカーの方々の囲む中、壇上において平野理事長、問屋会内田氏、西三板金連合会・杉浦会長の三氏により高柳氏の「せいひの掛け声で割られます。



ひきつづき、亜鉛鉄板問屋会の内田氏の幹杯の音頭で祝宴が始まりました。

り久しぶりに合わす顔に大声で話も弾み、仕事の話、ゴルフの話など、宴もすっかり盛り上がりました。



木の香りがする鏡割りの升酒も、とぶようにうれ、カラオケも始まり

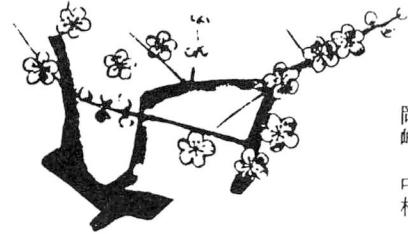
宴たけなわでしたが、温泉に入る人も出はじめ、中締めとして万歳三唱を県板常務理事、豊田・甲部氏の音頭で全員起立して大きな声で行われました。

閉会へとすすみ、閉会の辞は、県板常務理事の岡崎・石原氏の言葉で、新年懇親会もお開きになりました。

ひきつづき、宴がすすむなか来年度の会場設定地区・名古屋の村上副理事長より話があり一年後の再会を約束し

昨年、景気停滞がさきやかれるまま、年が明け、今年ほどのような新年会なのか楽しい新年会なのか、組合員の方々の胸の中は今年の仕事や景気に対する、不安や期待が入り交じっていることと

伝わって来るなか、三々五々帰宅の人となりました。



岡崎 中村

「雨・屋根・水」を考える (11)

― 金属屋根 ―

金属屋根には、最も一般的に知られているのがカラー鉄板葺きである。最近ではカラーステンレスやガルバリウム鋼板の材料で葺かれた屋根も多くなってきた。

金属屋根には他に銅板や鉛板がある。鉛板については後で触れることにして、日本では最も旧くから使われている銅板について書いてみる。

銅は鉄より融点が低いため加工がしやすく適度な堅さを持つているため、昔から武器として刀に使われたり、銅鐸のように楽器に使われた。また加工技術

が進むにつれ、鏡とか飾り金具に使われるようになった。しかし屋根材に使うほど薄い板をたくさん加工する技術は、江戸時代になっ

てからである。記録によると、最も古い建物では、慶長15年に完成した駿府城の天守閣、同じ慶長17年(1612年)に完成した名古屋城がある。五層建

の本瓦葺きであったが、二層目以上はすべて銅瓦葺きであった。が、第二次世界大戦の昭和20年(1945年)5月14日の名古屋大空襲で焼け落ちってしまった。現在の建物は昭和34年に再

建され、屋根はやはり銅瓦葺きとなっている。駿府城もまた完成して25年後に火事で焼け落ちて、現存しない。

この他に古い建物は日光東照宮があげられるが、本殿や拝殿は建造当時は檜皮葺きであったようだが、屋根に銅板が使われたのは回り

を取り巻いている透かし扉だけであった。現在のような銅瓦葺きになったのは、承応3年(1653年)に檜皮屋根を葺き変えるさい、銅板に葺き変えられた。

江戸時代(1603~1867年)とくに1650年代になって江戸幕府の金と力で多くの労働力を集めて伸銅することができ、徳川幕府の多くの建物が銅瓦に葺き変えられた。銅板は腐らないのと加工のしやすさ、また経年すると緑青で表面が美しくなることから重要な建物には多く使われてきた。

屋根を葺いていた職人は仏具や装飾飾りを作っていたかざり職人が伸銅技術や加工に携わった。このためつい最近まで私たちの職業は「鋳工」と呼ばれていたし、また現場の日報なども鋳工の欄があり板、という欄はな

かった。銅板の他には鉛板があり、鉛板を屋根に使用した建物は金沢城に付随する櫓とか門がある。また日本ではあまり使われなかったが亜鉛板がある。最近では亜鉛合金の錆なしルーフと言う材料が使われている。

鉄板が屋根に使われ出したのは明治の初めで、大波鉄板がアメリカから輸入され、駅のプラットホームに使われた。日本での製造は大正末期に八幡製鉄が製造していたようだ。

鉄板は錆びると言う先入観からか一般住宅にはなかなか普及しなかったし、戦争が起るたが鉄は軍需品に必要なためか手に入れることが困難であった。しかしトタン屋根は瓦

などより地震に強く、倉庫の屋根などコールタールを塗った屋根が多く見られた。トタン屋根が普及してきたのは太平洋戦争後である。昭和28年に八幡製鉄から長尺鉄板が発売されたが、巻取技術がなくて12尺しか出来なかった

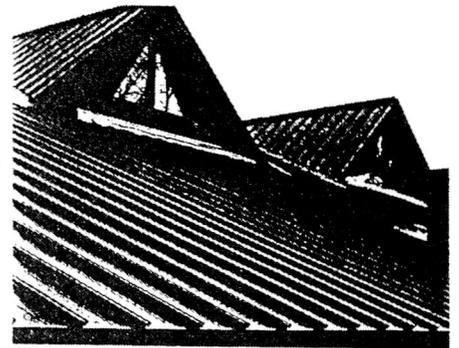
材料で三晃金属工業(株)が大波ロール成型機を開発し12尺の大波トタンが販売され出した。

昭和30年2月には現在のような三晃式真木なし瓦葺が開発され、体育館や大型工場の屋根に多く使われるようになった。37年7月には実用新案登録がされ、責任施工が営業基本の同社が大きな物件では断場であった。一般住宅では真木入り瓦葺が多かったが、三晃式瓦葺はその優秀性から一般建築でも採用されるようになった。各地で類似した施工をする業者が出てきてトラブルも増えてきた。

昭和40年代に入り世はいざ嵐景気と呼ばれる高景気に入り、瓦葺屋根の需要は益々増えることとなった。昭和42年にはS60に加えてルーフデッキが発売され、また43年にはW500が発売された。愛知県板金工業組合では、広報紙「愛板」を昭和42年7月に第1号を発行して現在に至

っているが、この第1号からも同う事ができるが、すでに長尺委員会を発足させて指導・研究・調査および情報資料の収集または提供などを行うとある。また成型価格や施工価格で組合員に、満があ

った。昭和47年に真木なし瓦葺、52年には折板S60の三晃金属工業(株)の工業所有権の期限が切れてどこの問屋さんでも成型ができるようになり、カラー鉄板も発売されていたことも合わせて長尺鉄板屋根がより一層普及することになった。このことから受注競争が激化して安値競争になってきた。



昭和50年代に入って塩ビ鋼板や耐酸被覆鋼板・カラーアルミ・ガラスステンレス・ガルバリウム鋼板などがぞくぞくと新しい材料が市場に回り出した。また横葺き屋根が開発されてからは、それ

とともに素材メーカーでも屋根材を製造成型、施工販売もするようになり、今や大型物件の獲得競争が激しくなってきた。 驚見

※後記 平成2年12月「三晃金属工業40年史」という記念史が刊行された。昭和23年に創業された金属屋根の加工及び施工会社である三晃金属工業(株)では、昭和36年6月から社内報「三晃」を発行していたが41年休刊、昭和42年1月からPR誌「三晃」として復刊された。そのPR誌「三晃」に昭和44年から平井 聖という先生が「屋根の歴史」を5年間も連載されてきて、単行本も出版されている。私もこの本を読んで、いぶん勉強になった。



名古屋城

支部だより

新春の集い

江南支部



1月5日小春日和の日曜日、恒例の新年宴会が江南駅近くにある割烹「つたや」に於て午後4時より参加者18名で開催されました。今井(文)支部長の年頭の挨拶、組合事業報告発表の後、滝伸次氏の乾杯の音頭で宴会に入...

新春の集い 東三支部

穏やかな新春を迎えた1月5日蒲郡ホテル竹島に於て午後6時より来賓に県板平野理事長をはじめ商社の方をお招きし組合員50余名...



py



健康ライフ

「肥満からの脱出①」

◎「私は太っているのでは？」... ◎「私は太っているのでは？」... ◎「私は太っているのでは？」... ◎「私は太っているのでは？」...

親睦旅行催す

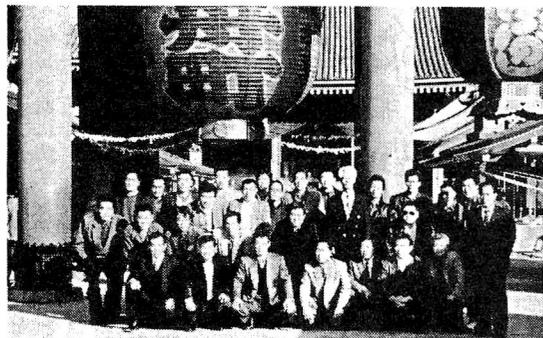
豊田支部

平野理事長からは「業務管理」について有意義な話を聞き夢と希望を与えられた。又商社より祝詞を頂き、蒲郡山本さんの音頭で乾杯し懇親会に入った。



午後9時過ぎ解散となった。東三 協坂

平成4年1月10・11日の両日恒例の親睦旅行を行った。行先は東京。参加者は36名と例年より多く、午前8時豊田を出発、一路東名高速を東京へ。途中富士山を眺めながらのバスの旅、車中アルコールも入って和気あいあい、東京では首都高速の渋滞を抜けて東京港日の出棧橋より隅田川を観光船で浅草まで川を上った。川にかかる橋の多さとウォーターフロント開発の規模の大きさに驚かされました。一日目の泊りは、上野公園のそば、森鷗



豊田 松井



20%以上、女性の場合は30%以上の状態であれば肥満の状態です。同じ身長で同じ体重の人でも、スポーツで鍛えている人の場合は脂肪は15%程度の場合が多いのです。逆に単に中年太りの場合には25%、30%などになっていきます。つまり、筋肉が増えて体重が増える「堅太り」と脂肪が増える「柔らかい」が違います。◎年令的にみると、現在、日本人の10代、20代の若い人の場合は、肥満は10人に1人以下です。一番多いのは中年の女性で、50代の女性が肥満です。60代、70代になると肥満者が減って10人に1人くらいになります。◎肥満は「なぜ体に悪いのか」... 一番のポイントは「平均寿命が短い」、これは生命保険会社の統計などでわかっています。個人差はありますが、肥満はいろいろな成人病を合併しやすいのです。次回はそのれについて書きます。

労務管理

【その1】

就業規則の作成と

届出について



就業規則とは、職場に於いて労働者が守らなければならない就業上の規律を決め、労働者の労働条件をはっきりさせるものである。

就業規則によって、労働条件や職場規律をはっきりさせて初めて労働者が安心して働け、職場の秩序が確立し、能率の高い労働が実現できるのです。就業規則は労務管理の第一歩といえるでしょう。

これらに就いても労働時間の短縮・週休二日制が叫ばれている今日、良質の労働力を確保していくには、職場の労働条件を明確にし整備していかねばならない。これは、職場の「憲法」といっても過言ではない。

使用者の作成義務

常時10人以上の労働者を雇用している場合には、その使用者は就業規則を作らなければなりません。一時的に

就業規則に変更が生じた場合にも届出をする事が義務づけられています。これらに関して作成・届出を怠った場合は使用者は10万円の罰金を払わなければならないとされています。

就業規則で定める事項は

就業規則は、その会社の経営状態や業種業態の実情に合わせて必要な事項を定めれば良いわけですが、一般的な定めをして良いというわけではなく、又労働条件の基本となるような重要な事項が定めなくてはなりません。

10人未満になることがあっても、10人以上を使用するのが常態であれば、その場合でも作成義務があります。但し、常時10人未満の場合に於いては就業規則を作る義務はありません。ただし、後日の紛争を避けるためにも作成し備えておく事が望ましい。特に人手不足解消のために求人募集の際には大いに活用出来るので、利用価値は高いのではないかと。

届出義務と手続

就業規則を作成したときには、使用者は事業場を管轄する労働基準監督署長に届出なければなりません。この届出は就業規則に労働者の過半数で組織する労働組合、又は労働者の過半数を代表する者の意見を記載した書面を添え、尚、意見書には労働者代表の署名または記名押印が必要です。いったん届出した就

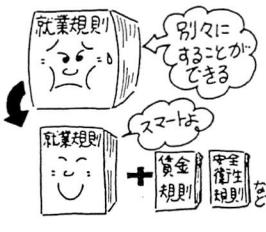
- 1 必ず記載しなければならぬ事項
- 2 その事項について定めをする場合には必ず記載しなければならぬ事項
- 3 使用者が任意に記載する事が出来る事項
- 4 絶対的必要記載事項

- 5 賃金（臨時の賃金は除きます）の決定、計算及び支払の方法、賃金の締切り及び支払の時期、昇給に関する事項
- 6 賃金額、賃金ベースそのものを規定するものではなく、賃金決定の要素・賃金体系など・計算方法及び月給制・日給制・出来高払制などの方法をいいます。
- 7 退職に関する事項（解雇を含み、労働者が使用者との関係でその地位を喪失する全ての場合に関する事項です。）
- 8 相対的必要記載事項

- 9 退職手当に関する事項
- 10 適用労働者の範囲、退職手当額の決定のための要素、算定方法、一時金で支払うのか年金で支払うのか及び支払の時期等を規定します。
- 11 臨時の賃金等及び最低賃金額に関する事項
- 12 支払条件、支給額の計算方法、支給期日などを具体的に規定します。
- 13 労働者の食費、作業用品その他の負担に関する事項
- 14 「その他負担」とは社宅費・寮費・共済組合費など、労働契約に基づき労働者に対して課する経済負担です。
- 15 安全及び衛生に関する事項



- 16 安全衛生に関する規定については、安全委員会又は衛生委員会の審議を経る必要があると解されています。
- 17 職業訓練に関する事項
- 18 職業訓練の種類・内容・期間・資格、訓練中の労働者に対する特別の権利義務を設定する場合には、それらに関する事項
- 19 訓練修了者に対し特別の処遇をする場合には、それに関する事項などです。
- 20 災害補償及び業務外の傷病扶助に関する事項
- 21 表彰及び制裁の種類及び程度に関する事項
- 22 以上の1〜7までのほか、事業場のすべてに適用ある事項、欠勤・遅刻・早退・外出・出向・配転・休職・旅費・技能教育・福利厚生などの事項です。
- 23 前記の事項以外の事項でも定める事は事業者の自由です。尚これらの事項を一つにまとめ、その事が非常に困難な場合は別々に規定を定める事が出来ます。
- 24 任意の記載事項とは、前記の事項以外の事項でも定める事は事業者の自由です。尚これらの事項を一つにまとめ、その事が非常に困難な場合は別々に規定を定める事が出来ます。



色々と記述しました。次回はその内容の条文化した例題により説明致します。

沼澤

編集後記

つい先日新年を迎えたばかりなのに、時の過ぎるのは早いもので「如月」二月に変わろうとしている。

ある時、フッと不思議に思う事がある。なぜ一月元旦はこの時に来るのか？前日でも後の日でもなく、なぜこの日が元旦なのか？別に難しく考える事でもなく、年号が設定された過去から順次に来ている。偶然その日が元旦になったただだが何かこたわるのである。

毎年、春夏秋冬同じ事が繰り返され、地球上の人間の喜びも悲しみも関係なく確実に時は刻み続けられる。

そして時と時の空間に一月元旦が来るのだが今この時は再び絶対に帰ってこない。これまで「時は金なり」とよく言われた。人生八十年長い様で短い。今年も「今この時」の空間をムダにしない様、意義深い一年にしたいと思う。

一月二十九日(木) 晴
二五八号 編集会議
委員 十一名 出席
午後五時終了 (S)